

学生にキッカケを 地域に笑顔を

NPO 法人 学生人材バンク



田中 玄洋 さん
Genyo Tanaka



「技術」から「人」へ

「高校生のころ、砂漠の緑化に興味があり、鳥取大学に行きたいと思っただけです。鳥取のことは、砂丘があるところとか、好きな梨の産地という基本的なことは知っていましたが、受験で鳥取に初めて来て、ようやく具体的な興味がわきましたね」

静岡県出身で、今は鳥取で学生たちと一緒に地域を元気にする活動を行っている田中玄洋さんは、鳥取に来ることになったきっかけを、こう話

してくれました。

大学3年生の時に、鳥取を中心に全国のさまざまな立場の人が参加するメーリングリスト（注1）に参加。その中で紹介されるイベントの手伝いを行うようになりました。「そうしているうちに、砂漠の緑化のような技術的なことから、『人』とのつながりに興味が移ってきたんです。このような活動をしていると、大学では学べないことがたくさん学べる。その体験を後輩たちにも残していきたいと思いました」。

平成14年4月、田中さんが大学院に進学するとさっそく、自らが代表となって「学生人材バンク」を立ち上げました。

地域と学生をつなぐ

学生人材バンクの仕組みの基本は、メーリングリストです。ボランティアや地域活動に興味のある学生が、会員登録します。田中さんのところに集まってくる「この地域で困っているが、手伝ってくれないか」「イベントのスタッフに来てほしい」というよう

な情報を、会員に電子メールで配信します。興味を持った学生が集まれば、頼まれたところに出發けていきます。

「最初のころは、人材バンクに登録してもらうために『地域に生まれませんか』というようなチラシも作りましたが、だんだん口コミで学生が集まるようになりました。『手伝ってほしい』という情報も、知人から口コミで入ってきます」と田中さん。今では800人を超える会員が登録されています。

情報交換の拠点として、ま

（注1）インターネット上で、登録者に電子メールを同時配信し、情報交換する仕組み。

日本初の女性弁護士

なかたまさこ
中田正子

現在、鳥取県弁護士会には5人の女性弁護士が所属しています。しかし8年ほど前までは、鳥取県の女性弁護士はたったひとりでした。その女性の名は「中田正子」。明治43年（1910年）に生まれ、昭和15年（1940年）に日本で初めて誕生した女性弁護士の3人のうちのひとりです。昭和23年、正子が鳥取県弁護士会に入会して以来50年以上、鳥取で弁護士として活動してきました。正子の記録（昭和45年）には、次のような記述があります。

弁護士会臨時総会。議長をつとめる。ふっと自分一人が女である事に気がつく。しかし他の人はそんな事に少しもこだわってはいない。ありがたいなと思う。彼等の良識であろうか。又、彼等に女を意識させない私の態度によるのだろうか。私にとって鳥取弁護士会はよき存在である。

当時は、現在のように雇用の機会や待遇などにおいて男女平等を保障する法律もなく、女性の就業率も低かったため、男性と平等に仕事ができるのは、まれなケースであったかもしれません。そのような時代に、正子はなぜ弁護士を志し、また弁護士を続けるなか、妻として母として91年間の人生をどのように駆け抜けたのでしょうか。

中田正子の生涯を紹介する展覧会を「あおや郷土館」で開催します。写真パネルにあわせ遺品類なども展示します。この機会にぜひご覧ください。



鳥取地裁前を歩く中田正子（個人蔵）

（やまびこ館 学芸員 奥村寧子）

巡回展「日本初の女性弁護士 中田正子」

▷と き：3月20日（金・祝）～4月12日（日）
▷と ころ：あおや郷土館（青谷町青谷 2990-4）
▷展示解説：3月20日（金・祝）13:30～14:30

問い合わせ先

やまびこ館 上町88 ☎ (0857) 23-2140



吉岡温泉ホテルまつりで人力車に挑戦

た、一般の人も気軽に相談できるよう、平成20年4月には鳥取大学のすぐ近くに「鳥取情報市場」という事務所を開設しました。行政からの委託も増え、同じ年の5月18日に特定非営利活動法人（NPO法人）（注2）の認証を受けました。

「限界集落」も実は元氣

平成16年から、鳥取県の委託を受けて、「農山村ポロン

ティア事務局」を始めました。その後、学生のアイデアで名称を「農村16きつぷ」と改め、鳥取県内の26カ所の地域で、地域の祭りの手伝いや、イノシシよけの電気柵の設置、米づくりなどに学生たちが取り組んでいます。

「若い人が関わることでよって、その地域の人々がこれまでと違う視点で自らの地域を見つめ直し、魅力を発見してくれるんです。そういう地域を一緒に変えていく、ワクワク感」を共有したいですね。限界集落なんて言葉が聞かれますが、山村が絶望にうちひ

暮らせる仕組み

しがれているわけではないんですよ。むしろ、山村に行つた学生が元気をもらって帰ってくるくらい」。現場にいてこそ分かる地域の力強さを教えてくれました。

「学生の意識も、今は多様化していて、田舎に住みたいと思っている学生も増えていきます。でも、学生人材バンクで紹介する仕事だけでは食べていけない。先日高知県に視察に行つたんですが、地域づくりのノウハウが豊富で、農産物や自然体験などの

地域の魅力を商品化して売っているんです。田舎で暮らす仕組みの考え方、やり方の第一歩が見えました」と田中さん。学生人材バンクの新たな展開を模索しています。

「学生にキツカケを 地域に笑顔を」が学生人材バンクのモットー。田中さんは、これからも地域と若者を笑顔でつないでいってくださるに違いないと語ります。

NPO法人学生人材バンク

TEL (0857) 3733373

MAIL info@jinzaibank.net

ホームページ http://www.jinzaibank.net/

jinzaibank.net/

（注2）社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称。